



2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年11月14日

上場会社名 株式会社RVH 上場取引所 東
 コード番号 6786 URL <https://rvh.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 和田 佑一
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部長 (氏名) 吉田 淳 TEL 03-4579-9755
 四半期報告書提出予定日 2019年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切り捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績（2019年4月1日～2019年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	29,544	△3.1	2,769	311.6	1,180	—	1,262	—
2019年3月期第2四半期	30,487	14.0	674	△66.3	△865	—	△816	—

(注) EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額

	税金等調整前 四半期純利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益		1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	△218	—	△1,054	—	△54.54	—
2019年3月期第2四半期	△1,278	—	△1,606	—	△83.12	—

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 △1,056百万円 (—%) 2019年3月期第2四半期 △1,606百万円 (—%)

	自己資本 四半期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	%	%	%
2020年3月期第2四半期	△12.9	1.6	4.0
2019年3月期第2四半期	△14.1	△1.0	△2.8

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第2四半期	78,178	7,676	9.8	397.11
2019年3月期	78,511	8,695	11.1	449.85

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 7,676百万円 2019年3月期 8,695百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年3月期	—	0.00	—	—	—
2020年3月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	57,500	△2.1	920	—	1,200	—	123	6.36

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

1株当たり当期純利益の計算上用いた期中平均株式数は19,329,960株であります。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期2Q	19,330,560株	2019年3月期	19,330,560株
② 期末自己株式数	2020年3月期2Q	600株	2019年3月期	600株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期2Q	19,329,960株	2019年3月期2Q	19,329,960株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) キャッシュ・フローに関する説明	5
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	12
(会計方針の変更)	12
(会計上の見積りの変更)	12
(追加情報)	12
(セグメント情報)	13
(重要な後発事象)	15

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、企業収益が堅調に推移し、雇用・所得環境も改善が続くなど、緩やかな回復傾向を維持していますが、米中貿易摩擦の長期化や中国及び欧州経済の動向等、海外経済の不確実性の影響が懸念される等、景気の先行きは不透明な状況が続いております。当社の主たる事業領域である美容エステティック市場におきましては、近年の市場規模が概ね横ばいで推移する一方、消費者マインドの弱まり、サービス・製品の多様化による業種・業態を超えた競争の激化に加え、労働需給の引き締めによる人件費の高騰、消費税増税の影響が懸念される等、経営環境は引き続き厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当第2四半期連結累計期間における当社グループの経営成績は、売上高29,544百万円（前年同期比3.1%減）、EBITDA2,769百万円（前年同期比311.6%増）、営業利益1,180百万円（前年同期は営業損失865百万円）、経常利益1,262百万円（前年同期は経常損失816百万円）、税金等調整前四半期純損失218百万円（前年同期は税金等調整前四半期純損失1,278百万円）となり、法人税等合計835百万円を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純損失1,054百万円（前年同期は1,606百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

なお、法人税等合計835百万円の内、法人税等調整額は817百万円であります。これは主に、ミュゼプラチナム社における旧会社からの事業譲受により生じた税務上ののれんにつき、税務上の損金算入額に応じて、対応する繰延税金資産を取り崩している影響によるものであります。

	報告セグメント				調整額		四半期 連結損益計算書計上額	
	レディスサービス事業		その他事業					
	金額 (百万円)	増減率 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)
セグメント売上高	28,986	4.8	1,892	△58.8	△1,334	—	29,544	△3.1
セグメント損益	1,262	—	△93	—	11	—	1,180	—
(参考) EBITDA	2,808	384.8	△54	—	14	—	2,769	311.6

※1 セグメント売上高には、内部売上高を含めております。

※2 セグメント損益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

※3 EBITDA=セグメント損益+減価償却費+のれん償却額

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

なお、従来「メディア・コンサルティング事業」、「システム開発事業」として記載していた報告セグメントにつきましては、「メディア・コンサルティング事業」の量的な重要性が乏しくなったため、第1四半期連結会計期間よりこれらを統合し、「その他事業」として記載する方法に変更しております。

また、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報についても変更後の区分で記載しています。

1) レディスサービス事業

<美容脱毛部門>

ミュゼプラチナムブランドは、当第2四半期連結会計期間において北海道に「イオンモール旭川西店」、神奈川県に「グラン川崎ゼロゲート店」をそれぞれオープンした一方、店舗統廃合により計8店舗を閉店し、2019年9月末日現在の店舗数は192店舗（前年同期は174店舗）となりました。

マキアブランドは、当第2四半期連結会計期間において9店舗を出店、2店舗を閉店し、2019年9月末日現在の店舗数は118店舗（前年同期は78店舗）となりました。

部門売上高は、ミュゼプラチナムブランドにおいて2019年4月より販売を開始した家庭用光美容器「S.S.C. EPI PHOTO SKIN CARE PRO」の販売が好調に推移したこと、マキアブランドにおいて積極的な出店強化に努めたこと等により、前年同期比108.4%と好調に推移いたしました。部門利益は、美容脱毛ブランド統合により広告宣伝費が前年同期比で縮小したこと等から、1,607百万円（前年同期は△560百万円）と引き続き大幅に改善いたしました。

<エステティック部門>

たかの友梨ビューティクリニックブランドは、引き続き店舗収益確保のため店舗の統廃合を進め、当第2四半期連結会計期間においては2店舗を閉店し、2019年9月末日現在の店舗数は79店舗（前年同期は88店舗）となりました。また、サロンにおける新たなエステティックコースとして「蜘蛛の巣ネットアップフェイシャル」のサ

ービスを開始したほか、「エステファクトオールインワンジェル20EX」のリニューアルとして「エステファクト3Dパーフェクタージェル」の販売を開始いたしました。

部門売上高は、店舗統廃合により前年同期比91.0%で推移したものの、人員の適正配置、教育強化等により1店舗あたりの生産性維持・向上に努めたこと、商品管理の徹底等による原価率抑制、広告宣伝費等のコスト削減を実施したこと等により、部門利益は前年同期比及び前四半期比でいずれも改善いたしました。

<アパレル部門>

アパレル部門は、第2四半期連結会計期間では個別店舗スタッフの販売強化研修、増税前キャンペーンの実施、EC取扱店舗の拡大等の取り組みを実施いたしました。ECサイト「TISEE」が前年同期比で増収した一方、商品取扱先量販店の閉店等により、取扱店舗数が前年同期比で減少したこと等により、部門売上高は前年同期比97.4%、部門利益は前年同期比83.4%で推移いたしました。

これらの結果、売上高28,986百万円（前年同期比4.8%増）、EBITDA2,808百万円（前年同期比384.8%増）、セグメント利益1,262百万円（前年同期はセグメント損失908百万円）となりました。

なお、第1四半期連結会計期間より、非連結子会社であった株式会社イナンナを連結の範囲に加えたため、報告セグメント「レディスサービス事業」に含めております。

2) その他事業

その他事業では、外部顧客向けマーケティングサービス及びグループ内WEB広告サービス、システム開発、人材派遣等を行っております。前第3四半期連結会計期間においてその他事業に属する一部子会社の全株式を譲渡したこと、前期と比較して下期偏重傾向が強まったこと等により、売上高1,892百万円（前年同期比58.8%減）、EBITDA△54百万円（前年同期はEBITDA47百万円）、セグメント損失93百万円（前年同期はセグメント利益0百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末において、資産、負債及び純資産は以下のとおりとなりました。各増減要因は後述のとおりであります。なお、勘定科目の名称を一部省略して記載したほか、増減要因は主なものに限定して記載しております。

	2019年 3月末	2019年 9月末	増減額	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
資産	78,511	78,178	△332	△0.4
負債	69,815	70,502	686	1.0
純資産	8,695	7,676	△1,019	△11.7

(資産の部)

	2019年 3月末	2019年 9月末	増減額	当第2四半期連結累計期間における主な増減内訳		
				内容	百万円	主な要因
	百万円	百万円	百万円			
流動資産	28,234	27,136	△1,097	① 現金及び預金	△533	商品仕入の増加、自社ローン取扱の増加
				② 受取手形及び売掛金	2,429	物品売上の増加
				③ 商品及び製品	666	物品売上増に伴う商品の増加
				④ 未収入金	△2,046	長期貸付金への振替
固定資産	50,276	51,042	765	① 長期貸付金	1,532	未収入金からの振替

(負債の部)

	2019年 3月末	2019年 9月末	増減額	当第2四半期連結累計期間における主な増減内訳		
				内容	百万円	主な要因
	百万円	百万円	百万円			
流動負債	53,808	54,330	522	① 前受金	159	美容サービス契約獲得の増加
				② 未払金	268	広告出稿増加に伴う仕入債務の増加
固定負債	16,007	16,171	164	① 長期借入金	374	連結範囲の見直しによる増加

(純資産の部)

	2019年 3月末	2019年 9月末	増減額	当第2四半期連結累計期間における主な増減内訳		
				内容	百万円	主な要因
	百万円	百万円	百万円			
株主資本合計	8,688	7,670	△1,017	① 利益剰余金	△1,017	親会社株主に帰属する四半期純損失の計上
その他の包括利益累計額	7	5	△1	① その他有価証券評価差額金	△1	その他有価証券に係る為替差損益

(3) キャッシュ・フローに関する説明

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物については、以下のとおりとなりました。
(現金及び現金同等物)

	2019年 3月末	2019年 9月末	増減額
	百万円	百万円	百万円
現金及び現金同等物	1,659	1,126	△532

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

	2018年 9月累計	2019年 9月累計	増減額	当第2四半期連結累計期間における主な増減内訳		
				内容	百万円	
	百万円	百万円	百万円			
営業活動による キャッシュ・フロー	△2,867	100	2,968	①	税金等調整前四半期純損失	△218
				②	売上債権の増加	△2,425
				③	事業譲受対価の見直しに伴う債権債務の増減額	△1,184
				④	前受金の増加	159

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

	2018年 9月累計	2019年 9月累計	増減額	当第2四半期連結累計期間における主な増減内訳		
				内容	百万円	
	百万円	百万円	百万円			
投資活動による キャッシュ・フロー	95	△511	△607	①	有形固定資産の取得による支出	△773
				②	長期貸付金の回収による収入	78

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

	2018年 9月累計	2019年 9月累計	増減額	当第2四半期連結累計期間における主な増減内訳		
				内容	百万円	
	百万円	百万円	百万円			
財務活動による キャッシュ・フロー	7	△142	△149	①	短期借入金の純増減額	16
				②	長期借入れによる収入	20
				③	長期借入金の返済による支出	△153

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期業績予想については、2019年5月14日に公表した数値を据え置いておりますが、下期の動向を精査中であり、今後の業績動向を踏まえ、修正の必要がある場合は、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,975	1,441
受取手形及び売掛金	11,934	14,364
商品及び製品	2,814	3,480
仕掛品	57	229
原材料及び貯蔵品	652	342
未収入金	9,188	7,141
短期貸付金	821	378
その他	2,014	1,828
貸倒引当金	△1,222	△2,069
流動資産合計	28,234	27,136
固定資産		
有形固定資産	8,710	8,863
無形固定資産		
のれん	25,990	26,052
その他	462	436
無形固定資産合計	26,453	26,489
投資その他の資産		
投資有価証券	1,471	1,472
長期貸付金	2,159	3,692
繰延税金資産	7,840	7,432
その他	3,777	3,420
貸倒引当金	△136	△329
投資その他の資産合計	15,112	15,689
固定資産合計	50,276	51,042
資産合計	78,511	78,178

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	857	1,011
短期借入金	428	449
1年内返済予定の長期借入金	219	175
未払金	2,672	2,940
未払法人税等	84	38
前受金	44,283	44,442
賞与引当金	302	311
返品調整引当金	251	190
ポイント引当金	43	54
その他	4,666	4,714
流動負債合計	53,808	54,330
固定負債		
長期借入金	405	780
長期預り金	15,305	15,134
退職給付に係る負債	215	196
その他	80	61
固定負債合計	16,007	16,171
負債合計	69,815	70,502
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,678	1,678
資本剰余金	7,520	7,520
利益剰余金	△510	△1,527
自己株式	△0	△0
株主資本合計	8,688	7,670
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△0	△2
退職給付に係る調整累計額	8	8
その他の包括利益累計額合計	7	5
純資産合計	8,695	7,676
負債純資産合計	78,511	78,178

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	30,487	29,544
売上原価	5,609	4,708
売上総利益	24,878	24,836
返品調整引当金戻入額	369	473
返品調整引当金繰入額	420	412
差引売上総利益	24,827	24,897
販売費及び一般管理費	25,693	23,716
営業利益又は営業損失(△)	△865	1,180
営業外収益		
受取利息	79	95
受取配当金	7	6
受取補償金	7	5
受取賃貸料	14	14
業務受託料	4	4
その他	36	31
営業外収益合計	149	159
営業外費用		
支払利息	18	47
貸倒引当金繰入額	80	—
その他	1	29
営業外費用合計	100	76
経常利益又は経常損失(△)	△816	1,262
特別利益		
固定資産売却益	1	1
移転補償金	—	21
その他	—	0
特別利益合計	1	22
特別損失		
固定資産除却損	20	17
減損損失	32	390
貸倒引当金繰入額	405	1,065
その他	4	31
特別損失合計	463	1,504
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,278	△218
法人税、住民税及び事業税	54	18
過年度法人税等	76	—
法人税等調整額	196	817
法人税等合計	327	835
四半期純損失(△)	△1,606	△1,054
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,606	△1,054

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純損失(△)	△1,606	△1,054
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	△1
その他の包括利益合計	0	△1
四半期包括利益	△1,606	△1,056
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,606	△1,056
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失 (△)	△1,278	△218
減価償却費	644	625
のれん償却額	895	962
敷金及び保証金の増減額 (△は増加)	61	20
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	675	1,088
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△3	9
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△0	△19
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	50	△60
受取利息及び受取配当金	△86	△101
支払利息	18	47
減損損失	32	390
売上債権の増減額 (△は増加)	△3,685	△2,425
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△501	△490
前払費用の増減額 (△は増加)	△341	19
立替金の増減額 (△は増加)	△3	△0
未収入金の増減額 (△は増加)	△651	798
仕入債務の増減額 (△は減少)	301	76
未払金の増減額 (△は減少)	819	285
前受金の増減額 (△は減少)	2,934	159
未払費用の増減額 (△は減少)	284	92
預り金の増減額 (△は減少)	△655	△205
事業譲受対価の見直しに伴う債権債務の増減額	△1,795	△1,184
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△250	168
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△413	△8
その他の固定負債の増減額 (△は減少)	4	—
その他	81	73
小計	△2,863	101
利息及び配当金の受取額	68	111
利息の支払額	△17	△45
法人税等の支払額	△121	△66
法人税等の還付額	65	0
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,867	100
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額 (△は増加)	835	1
有形固定資産の取得による支出	△610	△773
無形固定資産の取得による支出	△55	△52
貸付けによる支出	△415	△19
貸付金の回収による収入	101	18
敷金及び保証金の差入による支出	△125	△70
敷金及び保証金の回収による収入	222	248
長期貸付けによる支出	△4	—
長期貸付金の回収による収入	178	78
関係会社株式の取得による支出	△30	—
保険積立金の解約による収入	—	57
その他	△0	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	95	△511

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△279	16
長期借入れによる収入	510	20
長期借入金の返済による支出	△200	△153
割賦債務の返済による支出	△38	△21
リース債務の返済による支出	△8	△3
非支配株主からの払込みによる収入	25	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	7	△142
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△2,764	△553
現金及び現金同等物の期首残高	4,380	1,659
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	21
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,616	1,126

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	レディスサービス事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	27,659	2,827	30,487	—	30,487
セグメント間の内部売上高又は 振替高	9	1,766	1,776	△1,776	—
計	27,669	4,594	32,264	△1,776	30,487
セグメント利益又は損失(△)	△908	0	△908	42	△865

(注) 1. セグメント損益の調整額42百万円には、セグメント間取引消去150百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△107百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

2. セグメント損益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「レディスサービス事業」セグメントでの事業譲受対価の変動により、当第2四半期連結累計期間において、のれんが1,174百万円増加しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	レディスサービ ス事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	28,972	571	29,544	—	29,544
セグメント間の内部売上高又は 振替高	13	1,320	1,334	△1,334	—
計	28,986	1,892	30,879	△1,334	29,544
セグメント利益又は損失(△)	1,262	△93	1,169	11	1,180

(注) 1. セグメント損益の調整額11百万円には、セグメント間取引消去131百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△118百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

2. セグメント損益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「レディスサービス事業」セグメントでの事業譲受対価の変動により、当第2四半期連結累計期間において、のれんが774百万円増加しており、また、「その他事業」セグメントにおいて一部子会社にて当初想定していた収益が見込めなくなったため減損損失356百万円を計上しております。

また、「レディスサービス事業」セグメントにおいて、第1四半期連結会計期間より、非連結子会社であった株式会社イナンナを、重要性が増したため連結の範囲に含めております。これに伴うのれんの増減額は、第2四半期連結累計期間において567百万円であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来「メディア・コンサルティング事業」、「システム開発事業」として記載していた報告セグメントにつきましては、「メディア・コンサルティング事業」の量的な重要性が乏しくなったため、第1四半期連結会計期間よりこれらを統合し、「その他事業」として記載する方法に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第2四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。